

岐阜県歴史資料保存協会の 販売資料・書籍のご案内

岐阜県歴史資料館 1階西の協会事務局で販売しています
郵送希望の方は、メール（協会HPから可）または
TEL（058-214-8561）でお申込み下さい

◆『名もなき人々の歴史—濃州安八郡小泉村—』

（全国自費出版大賞優秀賞受賞著書）

協会会員 富田満江氏著 1,000円

本書は、安八郡小泉村（現大垣市小泉町）の庄屋であった説田家文書をもとに、江戸時代の小泉村の歴史が語られています。

村の運営、支配者との関係や治水事業等のほか、祭りを楽しむ村人など一般庶民の立場からみた一つの村の歴史が生き生きと再現されています。



◆『美濃・尾張の石碑を訪ねて』

協会会員 増田 修氏著

1,500円（会員は1,200円）

増田修氏が、10年をかけて美濃、尾張の石碑を訪ね歩いて調査された記録です。増田氏は、皆様に読んでもらい

研究等に役立てていただくとともに、協会の財政支援になればと当協会へ本書を寄付されました。

常夜燈、街道筋、道標、渡船場、頌徳碑、記念碑、改修碑、砂防碑、ダム等など、この地域の石碑のほとんどが掲載されている労作です。

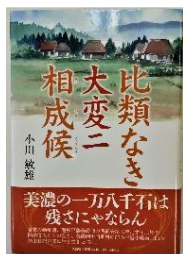


◆『比類なき大変ニ相成り候』

協会前会長・顧問 小川敏雄氏著 1,200円

本書は、美濃国方県郡小西郷村（現岐阜市小西郷）の庄屋であった小島当三郎光純が記した「公用日記」に記された史実が物語風に著わされています。小西郷村は磐城平藩安藤氏の飛び地所領であったが、幕末の藩主であった老中安藤信正は公武合体策を進め和宮降嫁直後の文久2年（1862）1月に江戸城坂下門外で水戸浪士の襲撃にあい失脚した。

このような政情のなかで、小島当三郎が、王政復古・戊辰戦争と進む時代の大転換期に領地・領民のために様々な活動したことが克明に記されています。



◆『徳川家康と美濃四将の謎』協会元会長・

協会顧問 丸山幸太郎氏著 1,400円

本書は、斎藤道三・織田信長・明智光秀・古田織部の美濃四将の謎について解明するとともに、戦国の世を終焉させ新たな国づくりを実現した徳川家康について、四将が目指したものとのかんわりや違いについて述べられています。



◆『前田土佐守家資料館所蔵 図録 慈芳院の書状』

700円（会員は500円）

『慈芳院の書状』は協会会員がその編集・解読に貢献された縁により、寄贈していただいたものです。慈芳院は三代前田土佐守家当主前田直作（なおなり）夫人竹で、三代加賀藩主前田利常の外孫にあたる女性の書状（消息）です。

原文（写真）のほかに解読文・大意・解説が記されて、わかりやすい図録となっており、“なんでも鑑定団”の古文書鑑定でおなじみの増田孝先生から、「女筆文書を学ぶには大変良い本です」との評もいただきました。（右上写真は、『慈芳院の書状』中の一頁。）



◆『田辺家三代記—加納藩下級武士の日記を読む—』

協会会員 西村覺良氏著 3,000円

本書は、永井氏加納藩（岐阜市）下級武士の田辺家三代にわたる日記『見聞録』を読み解いたものです。厚見郡東島村（岐阜市）の有力農民であった田辺家は下級武士に取り立てられましたが、田地を所有して年貢を納めていました。

日記は、江戸後期より明治維新までの、加納城下はもとより、全国的な動向から家庭の事情まで広範囲に綴られており、あまり知られていない下級武士の実態が明らかにされています。特に明治維新前後の動乱期はリアルです。



◆『岐阜県古文書読解講習会史料集・解説集』（過年度）

バックナンバー各年度 1,500円（会員は1,000円）

※各年度の『史料集』の掲載史料名及び講師名は当協会のホームページに掲載しています。

◆『夢と夏』

（大原騒動の真実に迫る『夢物語』と『夏蟲記』の全解読文）

協会会員 三橋政信氏著 2,000円

大原騒動の基本的文献として、『夢物語』と、代官所出入りの医師が残した『夏蟲記』があります。両書の読み下し文を『夢と夏』として一冊にまとめられています。

